

## 市川自然博物館

2・3月号

だより

(通巻第17号)



## ～ タ ン ポ ポ ～

タンポポは、春の季語にもなっている身近な野草で、市内には4種類があります。古くから自生する在来種のカントウタンポポとシロバナタンポポは、草原や林で見られますが、その生育環境が次第に失われ、数少なくなってきました。

セイヨウタンポポとアカミタンポポは、外国から渡来し帰化した種類で、道端や空き地で普通にみられます。4種類ともよく似ていますが、花も種子も全体の感じも、よく調べてみると違います。

市川市の北部、北国分町の堀之内貝塚公園には、これら4種類のタンポポが生育しており、3月から5月にかけて比較しながら観察することができます。

# いちかわの 自然調査

『いちかわの自然調査』は、平成3年より開始した自然博物館の活動です。この調査は、市民のみならずから生物に関する情報を寄せていただき、その結果から生物の生息状況、そして市内の自然の状態を見ていこうというものです。このたび平成3年(1991)分の調査報告がまとまりましたので、その中から成果の一部をご紹介します。

なお、今年も同じ内容で調査します。春の項目についてはすでに開始しておりますので、情報がありましたらどうぞ自然博物館までお寄せ下さい。ご協力お願いいたします。

- 春** ・カントウタンポポ・ヒキガエルのたまご・ウグイス、ヒバリのさえずり  
**夏** ・ヘイケボタル・ドジョウ・ウシガエル・アメリカザリガニ  
・セミの声(アブラゼミ・ヒグラシ・ツクツクホウシ・ミンミンゼミ)  
・オニヤンマ、ギンヤンマ  
**秋** ・モズ・アザミ



## 1. カントウタンポポの生育地

情報数 33件

情報のあった期間 3月20日～4月30日

\*カントウタンポポは古くから日本に生育している在来のタンポポで、河川敷や雑木林の周辺、古い庭園などあまり人為的攪乱を受けて来なかった場所に多くみられます。今回の調査では、市の中北部に生育地が点在していることがわかりました。といっても安定した生育地は堀之内貝塚公園などごく一部で、多くは道端のちっぽけな草地のようでした。



# 1991 報告書より

## 2. ウグイスのさえずり

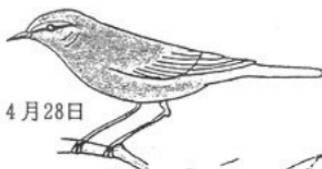
情報数

59件

情報のあった期間

2月16日～4月28日

\*春先に聞かれるウグイスのさえずりは繁殖期の初期のもので、その後ウグイスは郊外のやぶ地などへ移動して子育てに入るため市内からは姿を消します。したがって、ウグイスのさえずりについて調べた今回の結果からは、春先のウグイスにとって市内の環境がどうであるのかがわかります。結果は、ウグイスのさえずりは市内全域から幅広く報告されました。すなわち、雑木林や社寺林、屋敷林ばかりでなく、庭の生け垣や公園の緑、マンションの一角に設けられた小緑地なども、ウグイスにとっては重要な環境なのです。



## 3. ギンヤンマ

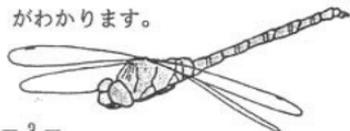
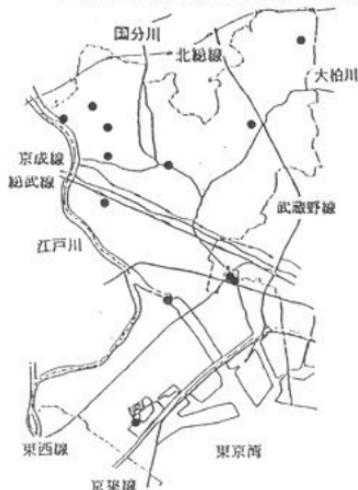
情報数

13件

情報のあった期間

7月1日～8月29日

\*ギンヤンマは、本来の繁殖地である開けた池沼のほか、プールや貯水槽などでも繁殖できることが知られています。調査の結果をみると、情報数は少なかったのですが、市全域から目撃情報が寄せられました。数は減ったものの、今でもしぶとく生息している状況がわかります。





おじゃまします!

# 街かど自然探訪

## 押切・道ばたで見られる春の野草

春先に花を咲かせる野草は、きびしい冬を小さな苗の状態で過ごし、日差しがやわらかになるといっせいに花をつけはじめます。小さな花がほとんどですが、花色はさまざまで結構楽しめます。

白い小さな花をつけるコハコベやオレンジミミナグサ、青色の花をつけるオオイヌノフグリやキュウリグサ、黄色の花をつけるハハコグサやカタバミ、そして鮮やかなピンクの花をつけるものには、ホトケノザやヒメオドリコソウがあります。公園のサクラやコブシばかりでなく、足元の野草にも目をむけてみてください。



コハコベ



キュウリグサ

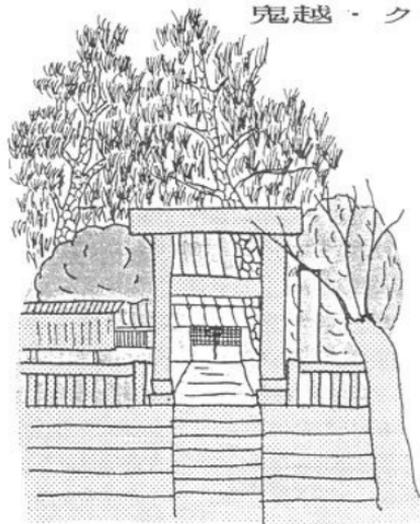


ハハコグサ

## 鬼越・クロマツがある神明神社

市の木・クロマツは、京成電車の線路沿いに、市川から鬼越にかけて連なるように群生しています。クロマツが群生する範囲は「市川砂州」と呼ばれる一帯で、縄文時代、海が現在よりも内陸まで入り込んでいた時代に形成された砂州地形の名残りで。

クロマツのある神明神社は、市川砂州の東端近くに位置し、市川・八幡方面から続いてきたクロマツも、この付近までくると目につかなくなってきます。しかし神明神社境内の土壌は細かい砂でできていて、かつて砂州だったことをしのばせています。



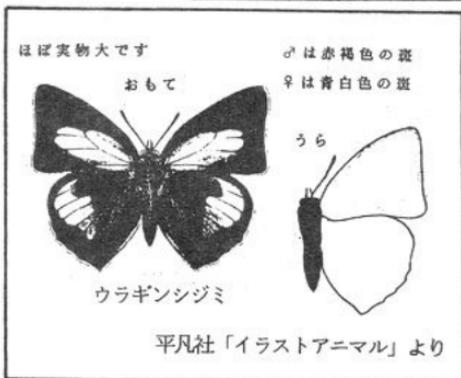
# 市川のこん虫 **ウラギンシジミ**



冬、木の葉にとまってひなたぼっこをしているチョウを見かけることがあります。冬を成虫で越すチョウたちは、ふだんは落ち葉の下などでじっとしていますが、2・3月の暖かい日には姿を見せます。

じーっとしていると、これらのチョウは時々呼吸をするように翅を閉じたりひろげたりします。翅は閉じた時に見える方が裏側で、一様に銀白色をしているチョウがいたら、

たぶん「ウラギンシジミ」でしょう。シジミチョウの中では大型で、学者によっては、シジミチョウの仲間としないで、別のウラギンシジミ科とする人もいます。ウラギンシジミは、翅の裏側はオス・メスとも銀白色なので区別ができませんが、表側にオスは赤褐色、メスは青白色の美しい斑があるので区別することができます。



平凡社「イラストアニマル」より

## むかしの市川 ～ その14 ～

### カラタチの話

今から50年ほど前までは、国府台から国分へかけての台地地域には、林や草原、畑などが広がってのどかな風景をつくっていました。そういう畑のまわりにカラタチが植えられ、垣根のようにあるところがありました。カラタチの枝には鋭く尖ったとげがあるので、うっかりさわると痛い思いをさせられます。カラタチは春には白い花が咲き、やがてゴルフボールくらいのもんまるい実がなります。はじめは濃い緑色ですが熟すと美しい黄色になり、とてもよい香りがまし



た。ナツミカンやユズなどミカン類の多くは常緑樹ですが、カラタチは同じ仲間でありながら冬は葉を落としてしまいます。こまかく枝分かれして、しかもとげのたくさんあるカラタチは、畑を守る立派な垣根でした。「からたちの花」の歌を聞くと、昔のカラタチのある風景を思い出します。

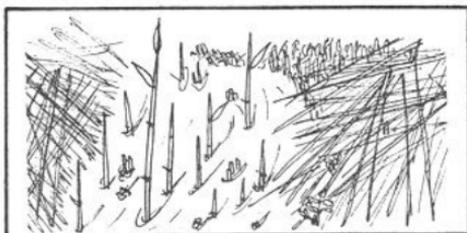
(博物館指導員 玉置善正 記)



昨年の秋の長雨以後、観察園内の水位は上がったままです。冬は雨が少ないですから、いつもの年なら湿地もあまりグジャグジャしていないのですが、今年は湿地面が水を被ったままです。台地にしみ込んで蓄えられている水が、まだ徐々に湧き出しているからで、その豊かな保水力には驚いてしまいます。園路の所々が濡れているのも、斜面の緑から水がしみ出しているからです。

流れに手を入れてみると、暖かく感じられます。場所によって多少の差があるのですが、水温は10～15℃で冬は気温よりずっと暖かいです。だから雪が降っても、水路のまわりはいち早く溶けてしまいます。

水路の中に緑色の細い先の尖ったものが幾つも突き出た、ちょっとユーモラスな光景に出会います。これはまだ葉が固く巻きこまれているヨシの新芽です。「よしのつ」と呼ぶ人もいて、暖かい流れの中が早く芽を出します。こんな小さい芽が夏には湿地をおおいつくすのか、とってしまいます。



## 行徳野鳥観察舎 だより

年末年始はご用心

12月30日から1月3日にかけて、JR市川塩浜駅の付近で保護されたセグロカモメがなんと3羽も相次いで入院してきた。駅上空の高圧線に衝突して落ちてきたもので、どれも翼か足を骨折している。

セグロカモメは翼をひろげると140cm近くもある大型種で、百羽以上が観察舎近くに集まる。観察舎と海を結ぶ直線上に市川塩浜駅がある。昨冬まではもうすこし浦安よりを飛んでいたのだが、海ざわに高い建造物ができたため、不慣れな駅の上空を飛んで電線に衝突したのだから。



う。いくら年の瀬といっても、まさかおとそ気分のせいではあるまい。

3羽もの「食いつき鳥」のおかげで手がかみ傷だらけ。一刻も早く退院させたい!!

文と絵・運尾純子

# 身のまわりの 季節の情報をお知らせ下さい

## 4-5月号より『わたしの観察ノート』

コーナーがはじまります。

自然博物館では市内の自然の現状と今後の推移を調べるために、昨年より「いちかわの自然調査」を始めました。調査結果の一部については本号で紹介しましたが、みなさまから調査項目以外の自然の情報もたくさん寄せていただきました。また、自然観察を熱心に行っている方々からもこれまでに、たくさんの情報をいただいております。

そこで読者のみなさまの観察記録を、多くの方々に知っていただき記録として残すために、「博物館だより」紙上で紹介していくことにしました。以下の要領ですすめていきたいと思っておりますので、どうぞ協力をお願いいたします。

### 1. 知らせて欲しい内容

◎自然観察で気がついたことであればどんなことでも結構です。

「珍しい」「貴重な」情報ばかりでなく、日々の観察のなかで見つけた季節感あふれる情報や、とにかく感動したということなどもお待ちしております。

◎それぞれの情報には最低限、次の3つの事柄を書いて下さい。

・観察した月日

(できれば朝屋夕方などの時間も)

・観察場所

(わかるならば○丁目○番地・○丁目の○○公園等まで)

・観察者の氏名、住所、電話番号

### 2. 連絡方法

情報を書いた紙を封書に入れるか、直接ハガキに書いてお送り下さい。

### 3. 掲載

「博物館だより」は隔月発行のため、情報を頂いてから掲載されるまで2カ月ほどの差が生じてしまうと思いますが、ご了承下さい。

\*情報を送っていただいたみなさまには「たより」をお送りすべきなのですが経費がないため、お送りできません。申し訳ありませんが、博物館窓口や公民館・市役所などで入手していただくか、送料62円分切手同封のうえ、博物館まで御請求下さい。

詳しくは自然博物館 担当：金子まで



☆ ☆ ☆ ☆ おしらせ ☆ ☆ ☆ ☆

## 『博物館だより』定期講読者大募集！！

自然博物館だよりを定期的にご読んでみませんか！送料分の郵便切手をお送りいただくだけで、年7回発行のこのたよりをあなたのお手元までお送りいたします。下記の要領で、3月末日までに博物館にお申込み下さい。4月号よりお届けいたします。

- 申込み方法 住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、送料分の切手（72円切手1枚と62円切手6枚）を同封の上、自然博物館まで封書でお申し込みください。

※2部以上の送付をご希望の方は、博物館までお問い合わせください。

☆☆☆☆ 自然博物館の行事案内 ☆☆☆☆

### 「3月の自然観察会」

1. 日時 3月8日（日）  
午前9時30分～11時30分
2. 場所 大野周辺
3. 内容 早春のたんぼの生物観察
4. 申込み期間 2/23～2/29
5. 定員 先着20名

#### \*申込み方法\*

往復はがきに参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ、自然博物館までお送りください（期間内必着）。

### \*おりがみ教室開催\*

1. 期間 2～3月の毎週土曜日  
午後2時～3時
  2. 内容 いっしょにいきものおりがみを折ってみよう
- 参加は自由です。開催時間内においで下さい。詳しくは博物館で。



次号は4月1日発行

市立市川自然博物館だより  
第4巻 8号（通巻第17号）  
発行日／平成4年2月1日  
編集・発行／市立市川自然博物館  
〒272 千葉県市川市大町 284番地  
☎ 0473(39)0477